情報技術者論　情報セキュリティレポート

B16079

前田　剛志

1. 昨今の社会問題となっているセキュリティインシデントとして「個人情報漏洩」を取り上げる。

大阪医科大学で、患者のカルテ４６万件が流出する事案が起きました。流出させたのは同大学に所属する男子大学生（24）。学生が抗議データなどの収集を目的に教員用のPCにUSBメモリを使用したところ、メモリ内の「バックアップソフト」が患者データなども自動送信。講義データだけでなく、レジュメデータや合計４６万件の患者カルテが流出していたことが明らかになった。[1]

1. (1)の事件の問題点にセキュリティ管理の甘さがあげられる。個人情報の入った教員用PCを学生が使用できたのはIDとパスワードが張られていたためである。また持ち出し禁止の患者のデータを一部の教員はUSBメモリに保存し持ち運んでいたことも発覚している。このような個人情報に対する危機管理の低さが問題にあげられる。

さらに問題なのが事件発覚までの時間です。男子学生が教員のPCに不正ログインしバックアップソフトをインストールしたのが２０１８年１月２５日ごろ。大学側が異変に気付いたのが同年４月１１日と約３か月もの期間が開いている。実質この期間大学の様々なデータが閲覧可能だったわけである。このように不正ログインや情報流出に関する対策を施していなかったことが問題発覚に時間を要した原因ではないかと考える。

この件からわかるセキュリティ面での問題は情報を扱うものの意識の低さ、たやすくPCにログインできる状況、不正なソフトなどを簡単にインストールできることまたインストールされていることに気付けないこと、データが外部に流出していてもすぐに気付くことができない状況であることがあげられるのではないかと考える。

参考文献

[1]

<https://cybersecurity-jp.com/news/26709>

「サイバーセキュリティ.com

大阪医科大46万件の患者カルテ情報流出、講義データ収集を目的に学生が教員用PCを不正利用」2018年10月23日参照